

支那紀行談

(講演)

豊山派管長大僧正

權田雷斧師述

我宗の本山の大講堂が火災にあつてより多年、再建の工事進まざりしも本年全く工事完成し今度八十歳になる私を導師として薦められ私としては辭するつもりでしたが是非私でなければならぬと云ふ様な事ではと言つて不得止導師となつた様な事である。

今日此の學校に來たのは丁度私しが支那遊行を終つて歸國した慰勞會に出席しましたが寺に歸るには是非京都に一泊せねばならぬ都合で常に親交してゐる三長君にその旨を通知した處わざ／＼京都驛まで迎へ下さつて尙諸君に話しをしてくれとの事ですが勿論學問的な事は出來ないが是も因縁の端であり且、私は鎮西派と關係もあり、行誠上人が自分の教へを受けたものは權田一人だと申された位であり小西君や石井君もよく知つてゐるので何やかやの因縁が和合し

て此處に話しする事になりました。

そこで過去を眺めまして、那より招待されて彼の國に行つたのは私しが先づ一人位のものですからその遊行中の感じた所として、支那人が日本人に對する思想、並に佛教上の區別を話させよう。

且て私は帝大に招待されて密教を解釋しましたその講義が本となつて出版された、所が他にも度々ある事ですが此の本が上海に渡つて長安縣に入り金山中學の創立者とも云はる可き教授によりて漢譯され赤表紙二卷のものとなりしきりに研究されてゐた。此の人は初め廢佛家で當時は師愈と稱しゐたが何れ漢學者だけに徒に佛教の否を言ふ事のあやまてるを思ひ價值あるや否やを調べん爲に研究せし所その眞理なるを知り遂に法の弘通の願を興し名を王弘願と改め

た、此くて王弘願が私しの本を漢譯するに於て併し「法の宣傳の爲には身命を屠しても」と思ひ再ひ行かんと決心した、元來支那中流以上は佛教信者で以下は道教徒か無信仰者である、王弘願は密教重興會を組織してゐた。所が王弘願は私等を招待するだけの經濟に餘裕かないので費用は自辨として密教重興會の名で招待した、そこで傳法には少數の僧では駄目だと思ひ老若僧等八九人と共に行こうと思ひ約束濟のものを東京に集めし所老人達は今迄費用は自分持でとまで云ふて力を入れてゐたのに今更となつては一人として行くものなく、反對に若僧は費用なんかどうしてでも苦面するから異國民の彼として適譯を失ひたる二箇所の間違を除いては立派に譯してゐた所が幸ひにも此の本が私の手に入りましたので至急訂正して送つた所がそれが縁となつて月數回の文通をしてゐた。

其の後二年にして弟子の禮を取つて來たのでそれに應じて交際してゐた所后眞言宗の傳法を受けたいが何分奉職上の都合や經濟上の都合が

あるから自分に來てくれと乞ひ來りしも折悪しく日支國際上の問題起り至る所に「不忠國恥」の札を立て在支本邦人は彼の地に居住する事出來ず歸國する者多き有様なので隨行二人と共に行かんとせし決意も中止となつた行くと力を入れる様になつて最初の狀況とはまるで反對の様子となつてしまつた、私はその時思ひました、それは國家の中權は青年諸君である一國の盛衰は青年の意氣如何によると云ふ事です、だから連れて行くのはやはり青年に限ると思つてさう定めたのです、諸君青年宗教家よ、我國否世界の佛教の流布は君等の努力によるのです。

斯くして思つたより容易な航路で汕頭市の港に着いた、所がランチ數十雙で日本警察署長、領事内田五郎氏、支那警察署長、王弘願並に同會員の幹部、日本人協會長及外數名の人々が迎へてくれた、皆私しの姿を見るや合掌して拜した若し日本であれば念佛の聲で浪を躍らした事です、時の記録に「一佛生る、大師の再來生る」と、私し共は汕頭市で一時的の休憩をして長安縣

に向ひました所が今迄で「不忘國恥」の暴氣立つた此の地も一時に沈まり此の地の在支日本人も驚いたと云ふ事でした。私等は先づ開元三年建立の開元寺に参拜しました此の寺は石柱造りの大寺で釋迦、彌陀、觀世音等を安置してあります。寺の中を拜觀するに戸障子は一つとしてありませんそれで餘り漠として居るので障子のかはりにカネキン、キヤラコなどの布で區畫仕様と思ひ布を求めさせたが此の土地にはカネキンやキヤラコ等の布が無いので木綿巾より少し狭い蠟引の自國製の物を以つて來て代用としました。實に經濟的頭腦の進歩せる事驚くばかりで有る一切外國品を使用せぬ方針を取つてゐるのであります。それから此處を去つて湖のある大公園の傍の樓に行きました、是は實に立派なもので所謂西湖の涵碧樓であつて東京出發の時、蚊や南京虫の用意として殺虫薬を友人がくれたが何の用もなさずすてた様な有様で在支中の住宅として氣持のよい所でした、元來私は法力病に勝つての信念を持つてゐます、今此の様子より

考へて見ても日本人はあまり島國氣分で小を以て大きな支那全部を推察したものでないかと思はれます。此處に來た初め頃私は日本人ですと云つてくる用たしの人が三四人もあるのきをつけて見たが風が支那風の男であり言葉もあまり日本語に通じないので所を聞くに臺灣だと云ふ、吾人は臺灣人を一口に臺灣人と云ふが彼等に取つては日本人を大變に親しく思つてゐるのに感心しました。

此の時粵軍副總督洪兆麟が入り來り遠路わざわざ傳法の爲に來たのを喜びそして俗人でも傳法をしてくれるかと問ふので勿論さうですと答へると大變に喜び、私は今日から貴師の弟子となり且三度の食事は必ず御供養しますと誓つた。餘り鄭重なので自分は感謝のをを表した。すると弟子が師匠に御供養するのは當然で有る弟子に對して何の禮が入るものかと言ふ様な意氣を以て信仰の道に進まれました。

此の様な事で結構な涵碧樓に住居して開元寺に通ひ傳法をしてゐるとその縣長は日支の關

係をやはらげるのは洪兆麟に限ると思て來ましたそれで洪兆麟は汕頭領事や日本協會の人たちにも傳法を受けさせたがそれ等の人は政略の爲の受法であつた様です、此くして長安縣は皆法の兄弟の名を以て結び尙日本も同じ法の傳法を受けてゐるのだからとて日支法の兄弟なりとして排日の氣勢盛なりし金山中學附近も斯くした頭にしてしまつた。

元來米國の排日の如き一種の人種差別の結果で吾人は同人種の支那と親み合ふ事最も大事な事である、併して法の上の兄弟は彼等には永久にたえざる兄弟なりと思つたのであつた、兎に角彼等の眼にも洋人は大變いやな人種と思はれてゐるので、面白い話があるそれは私達の住宅涵碧樓には自分等を護衛の爲に特に支那兵一箇中隊が附けてあつた。其の兵が毎日十五人位づゝ團となりかはるがはる私達の室の中を眺めてゐた餘り窮窟なので通譯張金藍氏を命じて彼等の去らん事を頼んだ所翌日「樓上に洋人あり」と貼札すると同時に兵は一人も來室をのぞかなく

なつた、私は不信に思つて私は洋人でないよと申しますと通譯が洋人は彼等が最もきらいな人種として居るあの札を見ると兵は來なくなるからしたのだと申してゐました、それだけに基督教は大きらいで信するものは佛教のみであります。通譯張金藍も日本人と何等變りなき姿であり私共も支那服をきて往來に出た時支那人に話しかけられて大變困つた事もある位で姿と云ふ土地の狀況と云ひ動植物等も何等變つた如く思はれぬ、日支兩國が今法の兄弟として永久に親密を結ぶ必要が十分あつたのです。

次に日支兩國の僧侶の區別ですが支那の僧は美服を着てはゐません、そして着換も持たぬ人が多くありて煙草や酒は一切止め勿論女人との關係は絶対に許しません。併し内容を眺めればやはり欲と執着にもえる同じ人間である云ふ事もありました、又清潔に心を置いてゐるが傳法の入團の時には麻の破れ衣を着てゐた者もあつた、それが彼等にはよいとされてゐるさうであります、私等お互は大乗の鞞磨であるが支

那僧は小乗の羯磨で常に四分律を心得大乘の戒は少しも心得へず常に社會を離れて仙人生活をなしてゐるが併し山中に於て何をしてゐるかそれも規律を失つたわけのわからぬ事をやつてゐるのである。又彼等は常に無錢の旅をし必要品は在家の布施を求めてゐるのである。今一つ面白いのは頭に指頭大の灸を三個植えてゐる事では是は遺俗の多い彼等のそれをふせぐ爲である事です。又彼等は自活の生活で、寺には山も畠もある、それで僧が何かわからぬ風をしてゐる所も少なくないのである。

要するに是によりて佛教の維持者の區別が見られると同時に支那佛教信者は學者で、僧は社會の落伍者同様に見られてゐたので、長沙の密教重興會にも僧は一人も入れなかつた様な次第であつた。

順序立たぬ話でしたが諸君と面談の因縁の熟せしを幸として、支那遊行の一端を述べた次第です。了

インターネット公開許諾のない文章には
墨消し処理を施しています。